

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	令和 4 年 8 月 5 日（金） 1 0 時 3 0 分～1 2 時 0 0 分
開催場所	Web 開催 高松市役所（防災合同庁舎）3 階 3 0 1 会議室
議 題	（1）会長・副会長の選任 （2）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績 （3）新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況 （4）次期連携中枢都市圏構想 （5）ビジョン懇談会委員からの意見と回答について （6）その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	長山会長、松岡副会長、有澤委員、植田委員、笠井委員、香西委員、佐野委員、土井委員、永森委員、英委員、金江委員、加藤委員、石川委員、竹上委員、圓藤委員
傍 聴 者	0 人 （定員 3 人）
報道機関	0 人
担当課及び 連絡先	政策課（087-839-2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題（1）会長・副会長の選任

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。

（会長 長山貴之 委員、副会長 松岡久美 委員）

議題（2）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績

（会長）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績について、事務局から説明いただきたい。

会議経過及び会議結果

【事務局から説明（資料 6～12 ページ）】

（会長）

全体としての評価は、改善傾向にあり、代表的な取組を紹介いただいた。

議題（3）新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況

（会長）

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料 13～19 ページ）】

（会長）

新型コロナウイルス感染拡大防止と、デジタル技術を活用したが、昨年と同様約7割の事業に新型コロナウイルスによる影響があった。

デジタルを活用するなどの工夫はしたが、連携事業の中には、人を集めて接触型で行う必要のあるものもあり、中止せざるを得ないものもあった。

現在は、新型コロナウイルスの感染急拡大が起こっており、第7波と言われているが、今後も新型コロナウイルスの影響は継続すると考えており、引き続き新しい生活様式を前提とした事業の実施手法を更に定着させていかななくてはならない。

議題（4）次期連携中枢都市圏構想

（会長）

次期連携中枢都市圏構想について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料 20～22 ページ）】

（会長）

2015年の国勢調査のいわゆる中位推移計より、大きく出生数が割り込んでいる。

今年度中に2020国勢調査の将来推計が国立社会保障人口問題研究所から相当

厳しい予想値が発表されるものと考えている。

圏域内の人口減少に歯止めをかけるため、新たな連携中枢都市圏の構想を策定するに当たっては、かなり厳しい舵取りを迫られることになるであろう。

議題（５）ビジョン懇談会委員からの意見と回答

（会長）

ビジョン懇談会委員からの意見と回答について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料２３～２４ページ）】

（会長）

委員の方々から提出いただいた意見とその回答が２例紹介されたが、御意見などがあれば、御発言いただきたい。

（委員）

サンポート高松には、従来のシンボルタワーなどのほか、今後は、徳島文理大学、新香川県立体育館及びＪＲの駅ビル等、主体が様々な施設が建設される予定なので、これらの施設を有効利用するためにも高松市だけでなく、さぬき市、東かがわ市等にもあるすばらしい観光地をＰＲするような取組が必要であると考えている。

（事務局）

御提案のとおり、香川県、高松市などそれぞれの主体がしっかりと連携し様々な取組を実施していく必要があると考えている。

（委員）

今回の２０２１子育てしやすい街ランキングの評価は大変、喜ばしいことであるが、現場にいるものとしては、評価基準が少し違うと思っている。

資料を見ると、市町によって評価が異なっているが、それぞれの立場で評価基準が異なることについて、どのように考えているのか。

（事務局）

御指摘のとおり、評価基準が変わると結果は、変わると思っている。

子育てに限らず様々な分野で様々なランキング結果があるが、内容によってランキングは上下している。

2021子育てしやすい街ランキングは、あくまで今回の結果ということで、まだまだ子育ての環境づくり、ハードだけでなくソフト部分も含めて、様々な課題があると考えている。

連携市町の評価が異なっている件については、高松市も含めて評価の視点を合わせるよう協議は行っているが、定性的な評価の所で、若干の違いが出ているものと考えている。

この点については、今後、改善の必要があり、次期連携中枢都市圏構想の中での課題と認識しているので、委員の皆様のお意見をいただきながら検討していきたいと考えている。

議題（6）その他

（会長）

本日は、オブザーバーとして県自治振興課長にも御参加いただいている。国や県内の動向など、懇談会として知っておいた方がいいものがあれば御発言いただきたい。

（香川県）

まず、国の動向であるが「デジタル田園都市国家構想の基本方針」が令和4年6月7日に閣議決定されており、昨年までの「まち・ひと・しごと基本方針」を一新したものである。

これは広域連携によって、地域において必要な生活機能を確保していくことが必要であるとされていることを踏まえ、各取組内容の深化、充実を支援するものとなっている。

また、既存の連携中枢都市圏の取組事例集を作成し、周知するなどの取組を行い、2024年までに、39圏域を増やすことを目指すとされている。

次に、総務省が進めている地域の未来予測に基づく広域連携の推進であるが、限られた資源の制約の中で、2040年頃を目指してどのような、街の未来像とするのか検討するものであるが、既に広域連携の取組が一定程度進んでいる地域には、改めて地域の未来予測を検討若しくは、ビジョンを共有しておくことが広域連携の取組内容をより深化させるという観点から、有益であるとされている。

続いて、香川県の今後の方針であるが、総論としては、昨年度と比べて、助言、質問相談をより手厚くしていきたい。

連携中枢都市圏ビジョンの取組、事業等の作成の際に、高松市が、連携市町の意

見を十分に踏まえて、丁寧に広域連携を進めていくこと、また、特別交付税財政措置を受けるに当たっても、十分に協議、調整いただくことが重要であると考えている。

【事務局より今後の予定等について説明（資料無し）】

（会長）

以上で、本日の懇談会を終了する。